

Optics Japan 2005 開催報告

Optics Japan 2005 組織委員会
 実行委員会
 プログラム委員会

2005年11月23日(水)～11月25日(金)の3日間にわたり、東京都千代田区一ツ橋の学術総合センター(一橋記念講堂)にて日本光学会年次学術講演会 Optics Japan 2005 が開催された。日本光学会では、Optics Japan (OJ) を本学会の最重要企画のひとつと位置付け、現地実行委員会と幹事会が強力に連携をとり企画・運営している。今回、日本女子大学の小館先生を組織委員長、千葉大学の矢口先生を実行委員長、大阪大学の春名先生をプログラム委員長として、千葉大学の津村先生、大阪大学の小西先生の各委員会副委員長と20数名の幹事が密に連携して準備を進め、当日の会議運営を実施した。また、広報活動など、おもに活動する80名に及ぶOJ 2005 委員とも電子メール等による密な連携が行われた。

今年は、会期をこれまでの2日間から3日間へと延長し、他学会とのシンポジウム共催、若手を奨励する「OJ ベストプレゼンテーション賞」(OJBP 賞)の新設、「若手激励パネルディスカッション」の開催など、さまざまな取り組みの結果、過去にない盛況のうちに終えることができた。945名の参加者(事前登録563名、当日参加382名)を数え、本講演会はじまって以来の最大数となった。日本光学会会員の皆様方のご協力の賜物と深く感謝している。また、今年度の特徴としては、一般の非会員の参加者数が140名超となり、日本光学会以外の方に多くご参加いただき有意義な交流を実現することができた。他学会とのシンポジウム共催などの成果とともに、光学の分野の広がりを実感する会であった。

初日(23日(水))には、応用物理学会会長の榊裕之先生より“Quantum control of electrons in semiconductor nanostructures for advanced optics and photonics”と題して貴重な講演をいただき、祭日にもかかわらず250名超の方が聴講され、世界物理年にふさわしい学会の幕開けを飾ることができた。2日目(24日(木))の午後には、国立

情報学研究所顧問である末松安晴先生から“光技術の研究開発が未来を拓く”と題してご講演いただき、総務省大臣官房技術総括審議官の松本正夫様より“我が国の情報通信技術政策と光技術の展望”と題してご講演を頂戴した。400名超の方が聴講され、ご講演の内容と講演会2日目ということがうまく重なり、これまでにない大盛況なプレナリー講演会が実現した。

シンポジウムでは、電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティと技術共催の“世界をリードする日本の光技術”，電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会と映像情報メディア学会ヒューマンインターフェース研究会と共催の“脳科学と視覚”，電子情報通信学会通信ソサイエティフォトニックネットワーク研究会と技術共催の“デジタルシネマネットワークと光技術の新しい接点—”，電子情報通信学会・第二種研究会「光・エレクトロニクス・情報通信と高齢社会の健康・医療技術を考える時限研究専門委員会」と技術共催の“眼科における光学と医療の最前線”という他学会との共催シンポジウムをはじめ，“Progress of Wet Optics—ウエット光学ブレイクスルー—”，“VCSEL フォトニクスの進展”，“光学が拓く次世代光メモリとその応用，補償光学技術の新しい潮流—医療・工業分野への応用を目指して—”，“新しい光の物理とその展開”などの研究会企画シンポジウムが開催された。参加者数からわかるように、どのシンポジウムも大変な盛況であった。

新設された「OJ ベストプレゼンテーション賞」では、予想を遙かに超える79名もの若手からの申し込みがあり(予想は20名程度であった)、初日の特別セッションは、審査員の先生方の目が光る中で大変元気のいい発表と活発な議論が展開した。あまりの元気に隣のセッションまで声が届いてしまうなどのハプニングが出たが、運営する側としては、その活気は大変うれしい限りである。OJBP



図1 プレナリー講演（一橋記念講堂）。

賞を終えた初日の夕方には、日本学術振興会の久保真季総務部長，科学技術振興機構・早稲田大学の中島啓幾教授，オリンパスメディカルシステムズの後野和弘シニアエンジニアをアドバイザー役のパネリストとして迎え，OJBP 賞に参加した若手研究者参加のもと“若手激励パネルディスカッション：多様性の担い手と将来を考える”が開催された。若手からは，豊橋技術科学大学の宮澤氏，神戸大学の仁田氏，日本女子大の渡邊氏，千葉大学の高瀬氏が若手パネリストとして参加し，ポストク問題，博士後期課程修了後の就職，女性研究者の問題などをアドバイザーの先生方に問い，的確なコメントをいただいた。また，フロアからも活発なご意見をいただき，貴重な議論の場となった。SPIE 会長の Malgorzata Kujawinska 教授からは，“Micro-optics: Measurement challenges and novel instrumentation”と題して特別講演をいただいただけでなく，パネルディスカッションにおいて積極的にフロアからご発言いただき，SPIE が日本の若手を支援していく意思が大変強く感じられた。

2 日目に会場の隣の如水会館で行われた懇親会は，例年を 100 名近く上回る 230 名の参加者を得て盛会に行われた。OJBP 賞の授賞式，Optical Review 感謝状贈呈式，出展企業の紹介と，企画が多く大変盛り上がった。今回，



図2 OJBP 賞授与式（懇親会：如水会館）。

OJBP 賞の審査員として乾杯の音頭をとっていただいた辻内順平先生をはじめ，すでに退官，退職された大先輩をお呼びしていた関係もあり，大変有意義な交流の場を実現することができた。

今年の OJ は，企業からの展示の活性化を目指した甲斐があり，担当の千葉大学の羽石先生をはじめ多くの方々のご協力・ご勧誘により，38 ブースもの展示があり，大変活況であった。展示いただいた各企業には，本誌面をお借りして御礼申しあげます。本年度は，懇親会に参加いただいた展示企業の方には，壇上にて取り扱い商品の簡単な説明をしていただいた。このような企画はこれまでに他の学会でも実施された例がなく，参加された展示企業の方には大変好評をいただいた。

来年の OJ も今年と同じ学術総合センター（一橋記念講堂）にて，立野組織委員長のもとで行われる予定である。今年以上に活発な会になると思われる。

末筆になりましたが，会員の皆様のご支援のおかげで OJ 2005 が盛会に開催できたことを改めてお礼申し上げます。また，会員以外の他学会の方々，事務局のアドスリー様にも大変なご協力，ご努力をいただきました。ここに感謝いたします。

（文責：津村徳道）